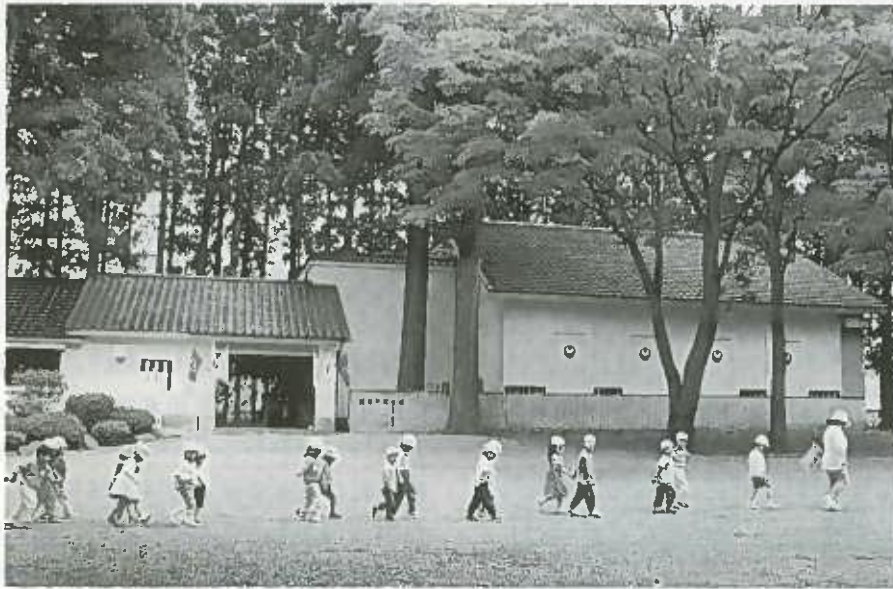


十和田市立 新渡戸記念館だより

太素塚は子供たちにとって、いこいの場です



太素塚境内にある
十和田市立新渡戸記念館

市民の記念館として親しまれるために

「だより」は市民と記念館のきずな



太素顕彰会会長
十和田市長 水野 好路

市民の皆様には、日頃太素顕彰会の事業に温かいご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。お陰様で顕彰会の事業は順調に運営されています。また5月3日から5日まで行われた稲生川上水139年の太素祭には多数の関係者と市民の方々が太素塚を訪れ祭りを盛り上げていただき、重ねてお礼申し上げます。当市は現在県下でも有数の米どころとなり旧三市に次ぐ大きな地方都市として発展しておりますが、先人のご労苦に対しあらためて敬意を表すとともに、この十和田市の開拓の歴史を絶ゆることなく後世に伝えていきたいと考えます。太素顕彰会は今あるこの十和田市の歴史を一人でも多くの市民の方々に理解していただきながら、今後50年、100年に向けて市の一層の発展を願い各種事業に取り組んでおります。そのひとつとして一昨年から「十和田市立新渡戸記念館だより」を発行して会員、関係機関並びに学校等に配布してきましたが、今年度から全市民に見ていただくために毎戸に配布する事になりました。この「記念館だより」が沢山の方々に愛読していただければ幸いです。今後とも太素顕彰会に対し変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

こんにちは!!
十和田市立新渡戸記念館です

新渡戸記念館は今から32年前に建てられ、増改築はありましたが建物はほぼ当時のままです。そのため見学には不自由な点もありますが、記念館スタッフの心のこもったサービスでカバーしていけたらと思っています。

- ★市民は無料となっております。
- ★小学生の社会科見学には記念館スタッフが解説をいたします。小学生用のビデオ上映もありますのでどうぞご利用下さい。(事前に電話でご予約下さい)
- ★三本木原開拓の歴史等についてなにか分からないことがありましたら電話・ファックスでもご質問下さい。
- ★「記念館だより」のバックナンバーには若干の残りがありますので必要な方はご連絡下さい。(3号と5号は無くなりましたのでコピーとなります)

新渡戸記念館の新しいサービス

来観者への車椅子(日本博物館協会寄贈)貸し出しサービスを始めました。また三本木原開拓の歴史を学べる手話通訳つきビデオ「ディスクカバー十和田開拓編・命の水」(十和田青年会議所制作)もあります。ご希望の方はご連絡下さい。





太素顕彰会評議員

砂土路川土地改良区理事長 立崎 賢治

国営相坂川左岸事業の一端として進められてきた砂土路川の排水改良事業も完了し、事業施工に感謝しております。植付けを終えた水田を見回すとき、稲生川の導水に尽くされた新渡戸傳翁をはじめ、現事業に至るまでの先人の偉業に感嘆致します。この功績を讃える新渡戸記念館の整備計画が今練られておりますが、整備後の記念館は十和田市のPRに一役担い、市の活性化につながると確信します。また館の運営母体である「太素顕彰会」に対し、市民の理解が不十分と日頃感じますので、記念館での活動を通し市民に一層の理解が得られる事を願っております。



太素顕彰会評議員

大光寺堰土地改良区理事長 苦米地 正伊

土地改良事業を取り巻く情勢は、昨今厳しいものがありますが「食料生産の源」となる農地の改良は、農業の発展に欠かせないものです。「田園都市」十和田市を中心とした現在の十三地域の発展の基礎は、今から139年前の新渡戸三代の偉業「稲生川上水」によりつくられました。現在も稲生川の恵み豊かな水が美田と緑の潤いを人々にもたらしています。「土」に生きる者として当時のご労苦を感じるとともに、この開拓精神の偉大さを未来に伝える責務があると思います。新渡戸記念館新館の建設を計画し、市民一致で取り組んでいくべきだと考えています。

太素祭開催 平成9年5月3～5日

5月3・4・5日に「太素祭」が開催されました。境内でさまざまな催しが行われ、4日には太素祭式典が執り行われました。この間、記念館を無料公開し「新渡戸記念館探検・ニトちゃんをさがせ！」を行いました。

太素祭式典

5月4日午前10時より太素塚境内傳翁墓前において太素祭の式典を行いました。太素顕彰会会長水野好路十和田市長が「稲生川上水139年目を迎え、開祖の偉業を顕彰するとともに、今日その志を受け継ぐ心を新たに、十和田市民を始め関係機関・団体共々慶びを申し上げ“10万都市”建設実現にむけて更なる努力を傾注して次世代へと継承していくことをお誓い申し上げます。」と祭詞を捧げました。続いて江渡衆議院議員を始めとする参列者が献花を行い、遺族を代表して新渡戸家当主の新渡戸明館長が謝辞を述べました。



太素祭式典を待つ参列の皆様

新渡戸記念館での催し

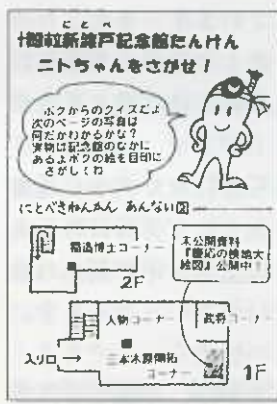
◇ 初公開の「慶応元年検地絵図」に関心高まる
この図面は安政6年(1859)の稲生川上水より6年後

慶応元年(1865)に三本木原開拓地域で初の検地が行われた際に作られました。3.6m×2.6mと大きいのでいつもは写真で展示していますが、今回特設コーナーで初公開しました。見学者は当時すでに用途区域が設定されていた事や今は無い地名の記載等を興味深く見ていました。



検地絵図を興味深く見学する来館の皆さん

◇「新渡戸記念館探検・ニトちゃんをさがせ！」子供たちに大好評



▲探検ガイドマップ表紙

特別企画として「新渡戸記念館探検・ニトちゃんをさがせ！」を行いました。これは館内の8つの資料の写真ガイドマップに載せてそれが何かを探すもので、館内に手掛かりとなる当館マスコット「ニトちゃん」のパネルを設置しました。子供たちはガイドマップを片手に、館内の探検を楽しんでいました。



マップを手に館内を探検する子供たち

5月の新渡戸記念館ニュース

新渡戸稲造著作紹介

『農業本論』—今も新しいこの一冊—



〈出版情報〉
明治31年(1898) 裳華房(東京)で出版された新渡戸稲造36歳の時の著書。
[写真は明治34年(1901)の第四版]

『農業本論』は明治30年(1897)新渡戸稲造が病気のため札幌農学校教務部長の職を休み群馬県伊香保で療養中にまとめたものです。日本では明治28年(1895)の日清戦争勝利の後、さらなる富国強兵策のために商工業のみを重んじ農業を軽視する風潮がありました。その社会の動きを憂慮して書かれたもので、農業の貴さを経済面、文化面、精神面にわたり様々なデータや古今東西の名著の引用などを使って論証しています。ここで主張されている「貴農論」は、現代の農業の苦しい状況において、より一層意味をもって見直されています。「如何なる国といえども、その食物を他国に仰ぐ間は、其の価格に如何なる変動を起こすやも計り難きを以て、まったく独立と称することを得ず」(どんな国も食料を自給できなければ独立国とはいえない)稲造が百年前に論じた言葉の真の意味が理解されてきているようです。

出版当時は異色のベストセラー

『農業本論』が出版された翌年、著名なジャーナリストだった徳富蘇峰が『国民新聞』に「農業本論を読む」と題して長い評論文を書きました。蘇峰はこの書評で稲造の博識により農学の専門分野にとどまらず広い視野に立った書となっていると賞賛しています。『農業本論』は農学書としては珍しくベストセラーとなりました。

※徳富蘇峰[文久3年(1863)-昭和32年(1957)] 本名・徳富猪一郎。熊本県水俣出身。ジャーナリスト。小説家徳富蘆花は実弟。



農業本論と「地方学」そして柳田国男



柳田国男

稲造は、自ら農村に出向き農業の方法だけでなく地方(じかた=町方)に対する言葉、田舎)の生活文化をじかに知るフィールドワークの手法(=地方学)を使って農業を論じています。この手法は稲造がドイツ留学の間に学んだものですがその後農学の分野よりも

民俗学や社会学に受け継がれました。『農業本論』出版から12年後の明治43年(1910)、新渡戸稲造は後の民俗学の大家・柳田国男と農村生活の調査報告会「郷土会」を結成しました。多くの場合稲造の家でこの会が開かれていたので、大正9年(1920)稲造が国際連盟事務局次長としてジュネーブに行ったためこの会も終わりました。

※柳田国男[明治8年(1875)-昭和37年(1962)] 兵庫県出身。民俗学者。
〈主な著書〉
『遠野物語』 『時代と農政』
『日本神話伝説集』
『日本昔話集』



▲当館では新渡戸稲造が研究した江戸時代の地方関係資料を多数所蔵しています。

今見直される『農業本論』

◆2月「全国農業新聞」で稲造の「貴農論」が紹介される



◀今年2月14日付「全国農業新聞」より。稲生川の写真は写真家・南良和氏撮影。

今年2月「全国農業新聞」—農を歩く—のコーナーで「いまでも新鮮な

稲造の貴農論」として『農業本論』が取り上げられました。新渡戸稲造の祖父・傳、父・十次郎が手がけた人工河川・稲生川の写真とともに、「太平洋のかけ橋」で有名な国際人・稲造の農学者としての一面が紹介されました。

◆『農業本論』紹介の書「農は万年、亀のごとし」出版

昨年出版の『農は万年、亀のごとし』(京大名誉教授渡部忠世氏著)は現代の農業の厳しい現状を稲造の「貴農論」を手がかりに考える書です。「これまでの文明中心主義の社会から文化中心の社会へと再構成が行われつつあり、農業を文化の基礎として貴いものと考えなおすべき」と渡部氏は主張しています。題である「農は万年」は『農業本論』の一文「農は万年を寿ぐ亀の如く商工は千歳を祝う鶴に類す」からとられています。



◀5月の記念館ニュースパネル

関連情報

●太素顕彰会事務局（商工観光課）新スタッフ紹介

平成9年4月太素顕彰会事務局スタッフに人事異動がありました。昨年一年間事務局主任を務めた柴宮主任主任にかわって、新採用の中沢一弘主事が新スタッフとなりました。（5月からシルバー人材派遣の鈴木すゑさんが太素塚の清掃整備を担当しております。）

●昨年12月1日から5月31日までの来館小学校

〈十和田市〉北園小学校・三本木小学校・高清水小学校・ちとせ小学校・南小学校 〈東北町〉蛭沢小学校 〈五戸町〉上市川小学校 〈名川町〉鳥舌内小学校 〈三戸町〉三戸小学校 〈福地村〉福田小学校 〈南郷村〉中野小学校

●花巻新渡戸記念館企画展に当館全面協力

花巻新渡戸記念館で9月に開催予定の企画展に対し、当館が全面的に協力する事となりました。この企画展では新渡戸維民、傳、十次郎三代の遺品を展示しその人柄や業績を偲ぶもので当館から約30点を貸出予定です。その中には初公開となる傳愛用の箸箱（夫婦箸入り）や十次郎愛用の硯箱等も含まれています。どうぞ機会がありましたらご覧ください。

●県史編さんの近世部会調査研究員として館長参加

昨年から新渡戸館長が県史編さん近世部会調査研究員に任命され、当館を含め各地の調査に参加しております。本年8月当館での第二回調査が実施されます。

●衰弱していたもみじ（推定樹齢150年）蘇る



昨年6月から衰弱のはげしかつた記念館前の4本のもみじの蘇生処置が行われていましたが、今年は青々と若葉を芽吹き治療の効果が目に見えて現れています。

◀青々と葉を繁らせるもみじ

記念館資料の提供

●盛岡市中央公民館「盛岡城と南部家の至宝展」

盛岡市中央公民館で4月28日から6月1日まで開催

の企画展「盛岡城と南部家の至宝展」へ当館所蔵の盛岡城絵図一点を提供致しました。この企画展は盛岡城築城から400年を迎えた事を記念して開催されました。

●全日空主催の「新渡戸稲造シンポジウム」



◀シンポジウムの様子

◀展示を見る参加者

5月31日に開催の全日空主催「新渡戸稲造シンポジウム」に稲造博士の蔵書二冊と稲造博士の書のレプリカ1点、関連の写真25点を提供致しました。提供資料はシンポジウム会場で開催の「太平洋のかけ橋・新渡戸稲造の世界展」で展示されました。約1500人が参加したパネルディスカッションでは、稲造博士の思想を手掛かりに近年の教育問題にまでおよび、稲造博士が提唱した「人としての常識や社会性を培う必要」が強調されました。当館からは館長と佐々木学芸員が参加しました。

活動報告

●青森県都市監査委員会定期総会で館長講演

5月8日県内八市の監査委員、事務局員参加の県都市監査委員会定期総会で新渡戸館長が講演を行いました。演題は「新渡戸三代と三本木原開拓」で開拓の事だけでなく幅広い視野で稲造博士の「貴農論」等を紹介しました。



▲講演をする新渡戸館長

●新しいカラーパンフレットが完成

この程新しくカラーのパンフレットが完成しました。これは県外の方に記念館を広く知ってもらう事を目的に作りしましたので特にご利用の方はご連絡下さい。

●太素祭期間中「新渡戸記念館探検・ニトちゃんをさがせ！」開催

太素祭期間中(5月3～5日)「新渡戸記念館探検・ニトちゃんをさがせ！」を開催しました。(詳しくは2面)

編集後記

季刊の「記念館だより」第9号から十和田市広報と一緒に全戸配布する事になりスタッフ一同決意を新たにしております。今後とも読みやすく親しまれるものを目指したいと存じますのでご支援をお願い致します。

発行 十和田市立新渡戸記念館

〒034 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430

印刷 有限会社 岩間印刷所